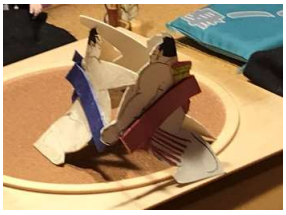
春日根親方は土俵そばで対戦を見つめるが、春ノ翔の師匠の桐壺親方は縁起を担いで二階席からのモニター観戦と対照的。

観衆が固唾を飲んで見つめる中、立行司の軍配が返る。ともにいい立合いをみせ、土俵中央での攻防に。先に仕掛けたのは千代鈴。右からの上手投げで揺さぶりを掛けるが、そこを巧みにつけこんで左を差し込む春ノ翔。

千代鈴の体が若干浮いたところで、春ノ翔が低い体勢から下手投げを打つように正面土俵に寄ると、そのまま千代鈴が土俵から投げ出された。


春ノ翔○（寄り切り）●千代鈴

「あっ！」と場内では大きな歓声が上がり、「春ノ翔が勝った～」との声が上がる。「やられちゃいましたね！」と春日根親方。「千代鈴が負けたよ。春ノ翔の完勝だね！」と友砂親方。「いや～！すごい相撲だった！」と横綱同士の攻防のある見応えのある相撲に拍手が起こった。

この結果、十日目を終って、千代鈴、若ノ嶋、春ノ翔の３横綱が９勝１敗で並ぶというかつてない稀にみる優勝争いへともつれ込んだ。

千秋楽は、千代鈴と若ノ嶋、春ノ翔と大神楽が対戦。先に対戦する春ノ翔が勝てば、千代鈴と若ノ嶋の勝者との優勝決定戦。春ノ翔が負ければ、千代鈴と若ノ嶋の勝者が優勝ということになる。これまでにない大盛り上がりの千秋楽となった。

「勝間田さん、誰が優勝すると思う？」と朝日松理事長。「こうなると誰が優勝するかわからないですね。」と勝間田親方。勝負は紙一重だが、下馬評では千代鈴、春ノ翔、若ノ嶋といった順番だろうか？しかし、勝敗は取ってみないとわからない。休憩時間を挟んでいよいよ千秋楽。

三役揃い踏みのあと、関脇同士の対戦で鹿富士が豪快な押し倒しで鬼ヶ嶽に勝って、関脇小結で唯一勝ち越しを決めた。

十両で初日から８連勝して十両優勝と新入幕が確実視されていた若雲山がまさかの３連敗。しかも優勝決定戦で桃乃洲に敗れて十両優勝を逃し、新入幕の夢も泡と消えた。

鹿富士○（押し倒し）●鬼ヶ嶽

さらに東十両筆頭で返り入幕を狙う黒雲山も勝ち越しまであと１番としながら、九日目から３連敗してまさかの負け越し。鹿賀乃戸親方にとってはまさに泣きっ面に蜂状態で、「土俵の神様はいないのかぁ！」と嘆いていただけに、鹿富士の勝ち越しで悪いことばかりではないとご機嫌も直ったようだった。

そして、注目の二番で、まずは春ノ翔が土俵に上がる。対戦相手の大神楽とはこれまで１１勝９敗と拮抗している。十日目は千代鈴にいい相撲で勝っただけに、大神楽にも勝って優勝決定戦に名乗りを上げたいところ。一方の大神楽も今場所の優勝はなくなったが、来場所以降の横綱獲りのためにも横綱の一角に土をつけたいところ。

勝負は出足鋭い春ノ翔が立合いから一方的に寄っていき、大神楽の回りを許さずに寄り切りに破った。これで今場所の優勝は優勝決定戦での決着ということになり、まずは春ノ翔が名乗りを上げた。

大神楽●（寄り切り）○春ノ翔

結びの一番は千代鈴と若ノ嶋。これまでの対戦成績は２勝２敗の五分。勝った方が春ノ翔との優勝決定戦に臨むことになる。「錦風さん、どうかね、この相撲は？」と朝日松理事長。「とにかく若ノ嶋には勝ってほしい。千代鈴が優勝となると３連覇で、いよいよ千代鈴時代到来かってことになるからね。」と錦風親方。

大一番の相撲は、両者立ち上がるや千代鈴が若ノ嶋の体を起こして左を差した千代鈴が十分の体勢になって正面土俵に寄る。万事休すかと思われたが、ここからの粘りが若ノ嶋の持ち味。不利な体勢から左に回って残すと逆に寄り立て、千代が出てくるところを下がりながら引き落とすと千代の体が土俵に這った。

千秋楽結びの一番、９勝１敗で雌雄を決すべく睨み合う東西正横綱

「ついた！ついた！」と場内からの声。「よし！何とか勝ったぞ！」と喜ぶ錦風親方。惜しくも敗れて新横綱での優勝と３連覇を逃した師匠の春日根親方は「相撲には勝っていたので、それがせめてもの救いですね。」と慰めていた。

史上初続きの今場所の優勝争いは、若ノ嶋と春ノ翔が優勝決定戦で雌雄を決することになった。「新旧対決かと思ったら、旧旧対決になったね！」と鹿賀乃戸親方。先場所共に途中休場して、今場所に再起を賭けて望んだ両者。ともに復調なったと言っていい今場所の相撲だろう。

今場所は九日目に対戦して若ノ嶋が勝っているが、対戦成績は９勝９敗とまったくの五分。今場所の若ノ嶋は場所前にお家騒動で黒雲部屋に移籍した弟弟子の佐賀ノ海に四日目に敗れたものの、それ以外は不利な体勢になっても粘って勝ったり、四つ身からの出足もあり好調なときに戻った感じだ。

一方の春ノ翔は若ノ嶋以上の鋭い出足と、千代鈴戦にみせたような相手の一瞬の隙を突く巧みな相撲が冴えている。「本割では春ノ翔が東だったけど、決定戦は若ノ嶋が東で、どういった相撲になるか分らないね！」と朝日松理事長。

時間いっぱいとなり、立行司の待ったなしの声で両者が立ち上がる。立合いは五分だったが、若ノ嶋の出足が上回り、春ノ翔を正面土俵に寄り立てる。春ノ翔としては何とか堪えたかったが、気迫の若ノ嶋がそのまま寄り切った。「やった！勝った！」とガッツポーズの錦風親方。勝ち名乗りを受け、親方衆からの祝福を受けた。

３横綱１大関の史上初の優勝争いは、先に１敗した若ノ嶋だったが逆転で４回目の優勝を飾った。場所前に、朝日松理事長から「横綱としての相撲が取れなかったら、進退を考える時期かもしれないぞ！」と厳しいことを言われていただけに、横綱としての面目躍如を果たし、若ノ嶋も錦風親方も喜びとともに「ホッ！」と胸をなで下ろしていることだろう。

やはり横綱大関が番付通り強く、優勝争いを繰り広げる場所というのが面白い。来場所以降も今場所のような形になるのかどうかはわからないが、今場所のような展開を期待したいものだ。

関脇以下の三役陣は鹿富士以外は総入替えとなる。新しい布陣となる関脇以下を相手に３横綱１大関がどのような相撲を見せるか、第１５９回本場所初日は５月下旬の開催予定だ。今場所と同様、盛り上がる場所となることを期待したい。

（錦風）

元大関魁電の引退に寄せて

今場所、前頭十二枚目で１勝１０敗と振るわず、十両陥落が決定的となった麻縄部屋の元大関魁電が引退を表明した。

１３６回に岩風部屋から序の口で初土俵を踏み、いきなり５戦全勝で優勝し、１３９回には幕下に昇進して１４０回に５戦全勝で幕下優勝を果たし、翌１４１回に早くも新十両昇進。十両３場所目の１４３回には１０勝１敗で十両優勝、翌１４４回に新入幕を果たし８勝を上げて敢闘賞を受賞。

１４６回には新三役として関脇に昇進するとともに麻縄部屋に移籍、この場所は惜しくも負け越すが、翌１４７回に小結の地位で１０勝１敗で初優勝を飾

１４７回、全盛期の魁電